

ペダル踏み間違い時加速抑制装置の評価について

全国各地で相次ぐ高齢運転者による痛ましい交通事故を踏まえ、昨年11月に「高齢運転者による交通事故防止策に関する閣僚会議」が開催され、さらには平成29年3月末に行われた「安全運転サポート車の普及啓発に関する関係省庁副大臣等会議」の中間とりまとめにおいて、『今後、自動車アセスメントにおいて、ペダル踏み間違い時加速抑制装置など高齢運転者による事故の防止や被害軽減に効果がある先進安全技術を評価の対象に加える等の拡充を図ることにより、これらの技術の普及の促進を図ること』とされた。

以上を踏まえ、当該装置の評価実施に向けて具体的な検討を進めているところ。

【今回の評価検討会においてご審議いただきたい事項】

- 2018年度から開始する試験法については、以下のとおり、まずは試験条件を絞り込み、限定された条件から実施することとしたい。

- ① 走行方法
 - * 停止状態から、400[%/s]の速度でアクセルを踏み込む。
 - * 進行する方向は、前進と後退とする。
 - * 走行状態からの踏み間違い事故は対象としない。
- ② 衝突対象
 - * 人以外の対象物として「バルーンターゲット」を用いる。
 - * 人をターゲットとする試験は行わない。
- ③ 対象物までの距離（関係者において調整中）
 - * 対象物は1 m前方・1 m後方に設置する。

《理由》

現在販売されている当該装置の設計思想は自動車メーカーごとに様々であり、センサーの種類、制御方式、作動条件等が大きく異なっている。

そのため、自動車メーカーの意図した機能や効果を正しく評価できずに自動車ユーザーに対して誤った情報を提供してしまう懸念があるため、試験条件を絞り込み、ミスリードすることのないような公平・公正な試験法・評価法とするため。

【今後検討すべき課題】

- 停止状態のみならず走行状態からの踏み間違い事故への対応や、歩行者等を衝突対象とした試験は、今後の開発状況を考慮して、その導入にむけた検討を進める。
- 当該装置の評価点は、社会損失額ベースによる現行の得点に換算すると必ずしも高くないものの、高齢者をはじめとした運転が不慣れな方にとって、当該装置に期待される役割やその普及促進の意義は大きい。そのため、現行の得点による評価に加え、装置の機能や効果、特徴などの公表方法を今年度中に検討する。（予防安全技術検討WGとメディアWGが連携して検討を行う）